

## < 合歓のうた >

### — 育ての心 —

倉橋惣三

自ら 育つものを 育てようとする心。  
それが育ての心である。  
世に こんなに 楽しい心があろうか。  
それは 明るい 世界である。  
育つものと 育てるものとが  
互いの 結びつきに於て  
相楽しんでいる心である。

倉橋惣三（1,882～1,955）

「日本のフレーベル」あるいは「日本の幼児教育の父」と呼ばれ、わが国最初の幼稚園、東京女子高等師範学校、現在のお茶の水女子大学付属幼稚園に長きにわたって奉職された幼児教育者である。

春一番の強風が髪を逆立て背中をドドゥ～と押し出します。ワァ～キャア～の子ども達の声と共に連日の温かさが早足に近づく季節の訪れを予感させます。「ランドセル、来たんだ!! 赤と黒だヨ」「私はうす紫!! 机も買ってもらったんだ」「あのサ私のお姉ちゃん りすでしょう。だから私もりすかなァ～こんど…何組かな?」足取りも軽やか、鼻歌まじりでルンルン…三輪車を連ねてドライブ!!日々子ども達は現在進形。きびきびした会話や動作がとびかい毎日の暮らしの中に育ちの種が潜んでいます。五感で感じた一コマ一コマが小さな気付き、発見、興味へとつながりチャレンジ、スランプ、チャレンジの地道な繰返しがクリアを導き自己肯定感となって心と身体を育てています。ひよこ、年少、年中、年長と皆次なるステージに胸をふくらませているようです。あわてず、あせらず、「僕は僕、私は私」です。保護者の方々と手を携えて、次への一歩が軽やかに踏み出せるよう「大丈夫!! 大丈夫!! 見てるヨ!!」とホットな笑顔と眼差しでエールを送ってまいりましょう。

